

日本乾癬学会登録症例の集計 -2008-

日本乾癬学会

理事長：飯塚 一（旭川医大）

事務局長：高橋英俊（旭川医大）

登録カード集計：原田昭太郎，五十嵐敦之（NTT 関東病院）

報告者：高橋一朗，高橋英俊，飯塚 一（旭川医大）

An annual report of the nation-wide registration of psoriasis -2008-

The Japanese Society for Psoriasis Research

President: H. Iizuka (Asahikawa Medical College)

Secretary general: H. Takahashi (Asahikawa Medical College)

Registration: S. Harada, A. Igarashi (NTT East-Japan Kanto Hospital)

Reporters: I. Takahashi, H. Takahashi, H. Iizuka (Asahikawa Medical College)

During the year of 2007, 2,003 patients with psoriasis consisting 1,329 males and 674 females were newly registered. Total number of the registered patients is 40,082 including 26,483 males and 13,599 females. The clinical summary of the registered patients in 2007 was presented in the 23rd Annual Meeting of the Japanese Society for Psoriasis Research in Asahikawa.

Psoriasis vulgaris was a dominant type of psoriasis. Paternal imprinting, a dominant inheritance from father to children, was observed. Diabetes mellitus and hypertension were the major past histories. Nail involvement, joint symptom, and obesity were frequently observed. Diabetes mellitus, obstructive cardiovascular disease, and hypertension were frequent complications. Psychological stress, infectious disease, and seasonal impacts were major exacerbating factors. Systemic administration of cyclosporine or topical UVB were common preceding therapies, which have been increasing recently.

2007年度には、男性 1,329 例、女性 674 例（男女比：1 対 0.51）、計 2,003 例の新規登録がなされた。

臨床病型は尋常性乾癬が 1,700 例(86.1%)と最も多く、急性滴状乾癬 95 例(4.8%)、関節症性乾癬 81 例(4.1%)、乾癬性紅皮症 31 例（1.6%）と続いた。

家族歴の有無ではアトピー素因あり、リウマチ性疾患ありは、各々 3.8%と 1.3%で、極めて少なく、乾癬の家族歴ありは、男性で 3.8%、女性で 4.0%に認めた。また、家族歴に乾癬がある場合、男性では「父」54.8%、「母」7.7%、女性では「父」55.8%、「母」3.9%であり、いずれも「父」が「母」を、男性で 7 倍、女性では 1.4 倍上回っており、例年と同様に **paternal imprinting** の存在を示唆する結果であった。

既往歴としては糖尿病(9.0%)、高血圧(15.1%)が多く、リウマチ性疾患(2.4%)、腎炎(1.9%)は少ない傾向にあった。

合併症状では関節症状が 9.6%にみられた。爪病変が 18.8%にみられ、高度な爪病変を認めるものは 4.5%であった。肥満を 8.8%で合併していた。そう痒は半数以上で合併する症状であった。

合併症としては糖尿病(9.4%)、心臓・血管閉塞性疾患(6.8%)、高血圧(16.0%)が比較的多く、痛風は 3.1%であった。

悪化因子としては精神的ストレス(7.5%)が最も多く、感染症、季節因子が続いた。

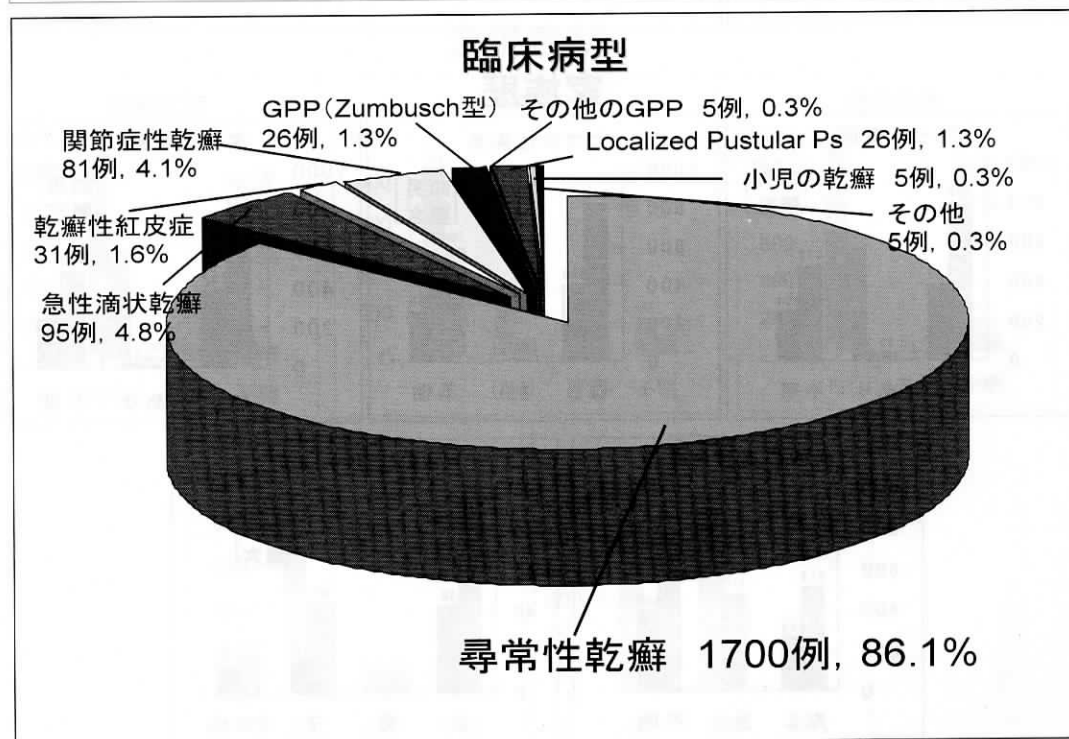
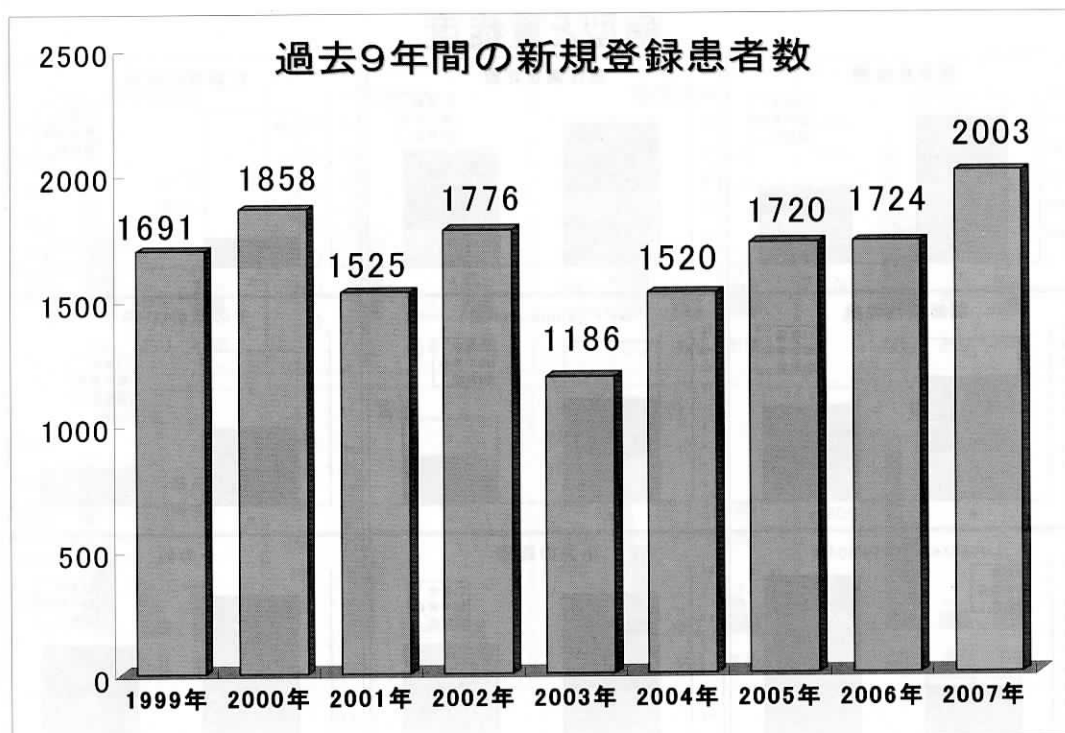
既往の治療の全身投与では本年度もシクロスポリン(9.0%)が最も多くレチノイド、ステロイド内服、抗炎症剤、PUVA が続いた。

局所治療ではステロイド 80.8%、ビタミン D3 55.2%、PUVA 4.3%、UVB が 8.3%であった。

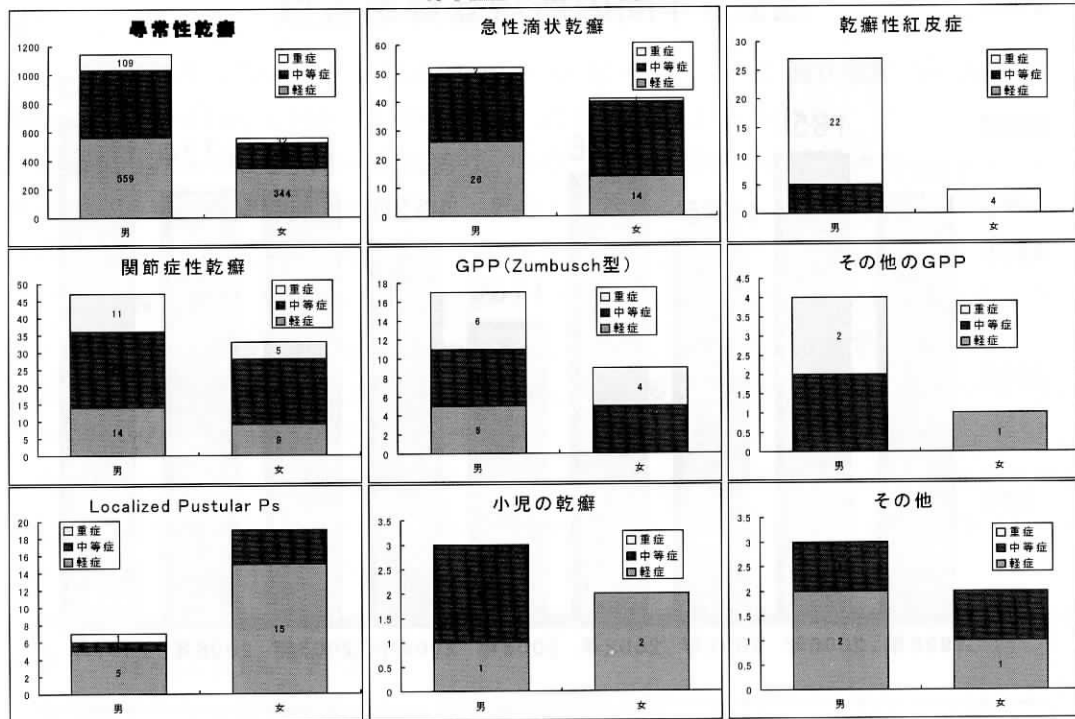
最近の治療内容の変化としてはステロイド外用、ビタミン D3 外用、シクロスポリン内服、UVB はいずれも増加傾向にある。

臨床検査値の異常との関連では、血中脂質(14.3%)、尿酸(8.2%)、白血球数(8.0%)などで異常値を示す割合が高い。

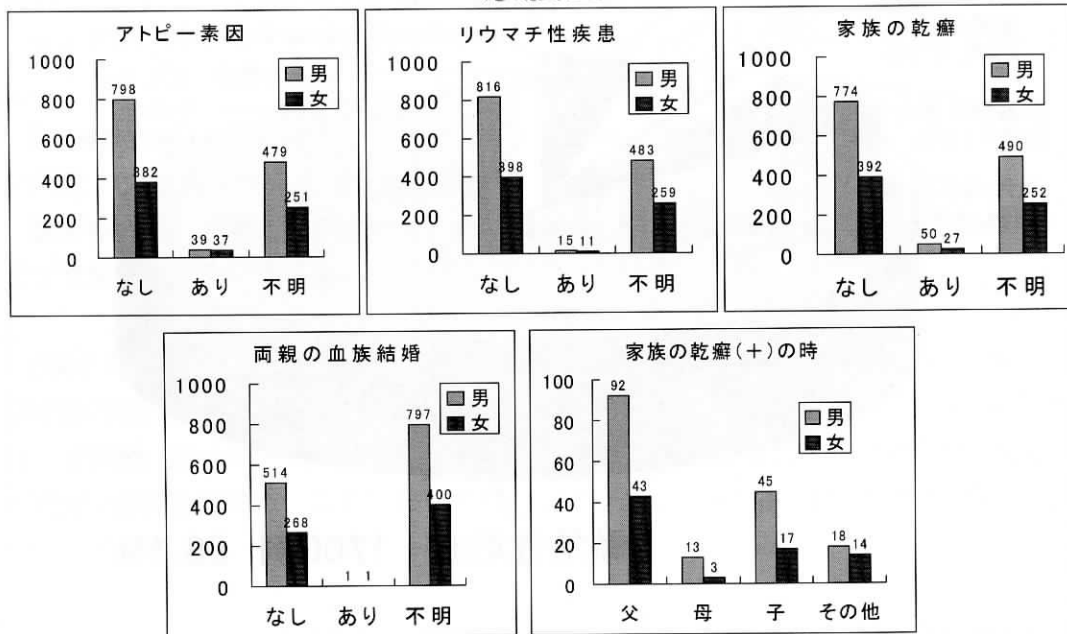
2007 年度は、疫学調査を開始してからこれまでで最も多い、新規登録がなされた。累積患者数は男性 26,483 例、女性 13,599 例、合計 40,082 例となった。臨床病型の割合、家族歴、既往歴、合併症状、合併症、悪化因子、検査値異常などの各項目は例年と同様の傾向を認めた。治療においては、シクロスポリン内服、UVB 治療の増加傾向が続いている。



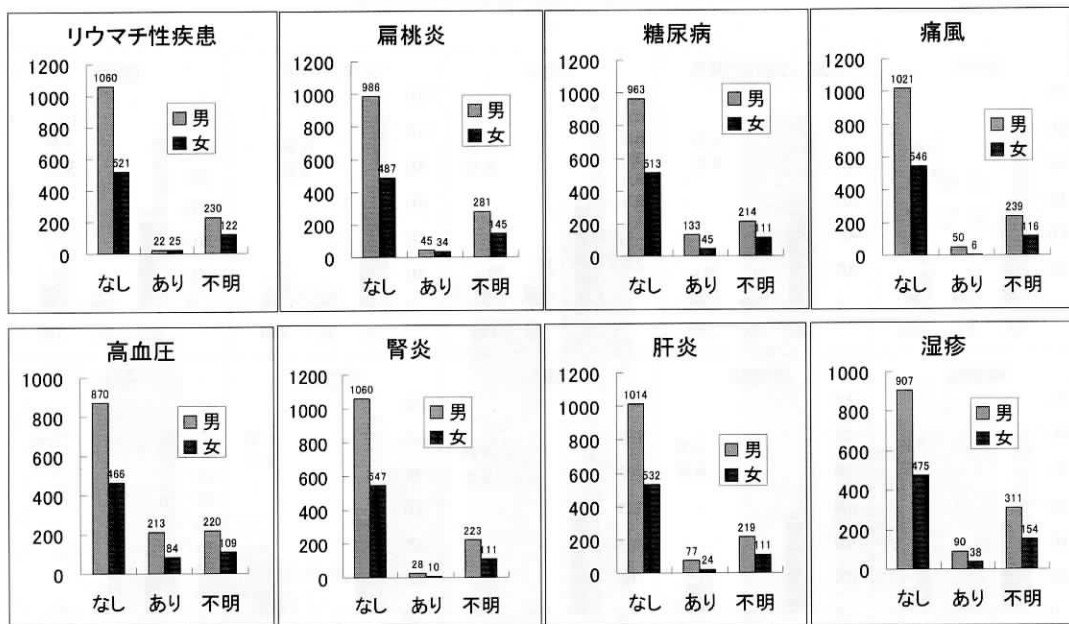
病型と重症度



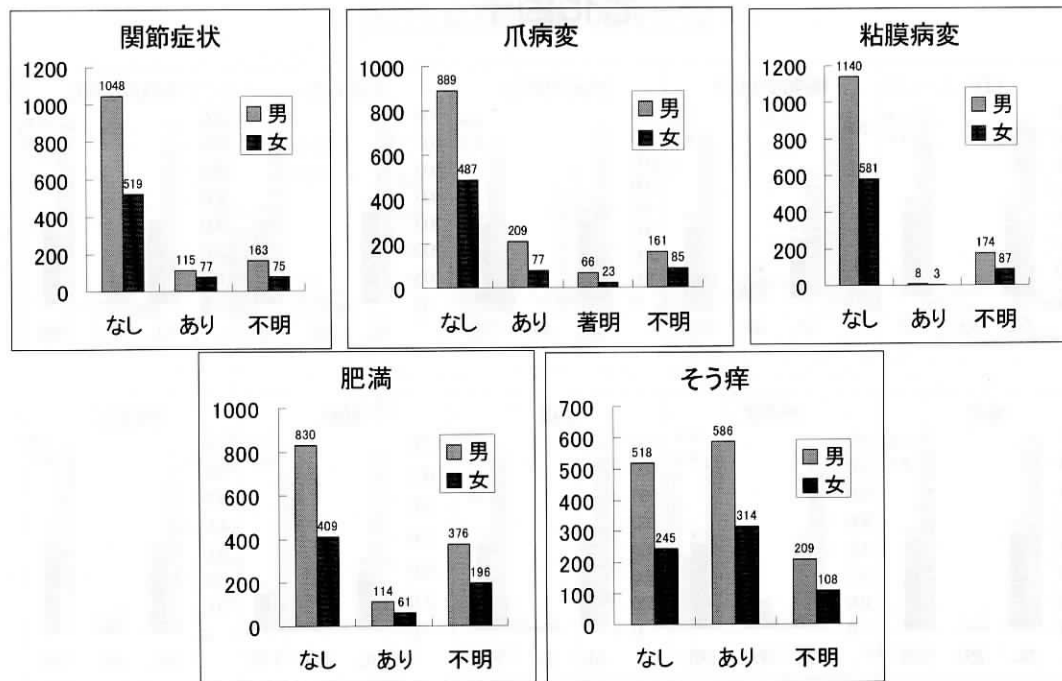
家族歴



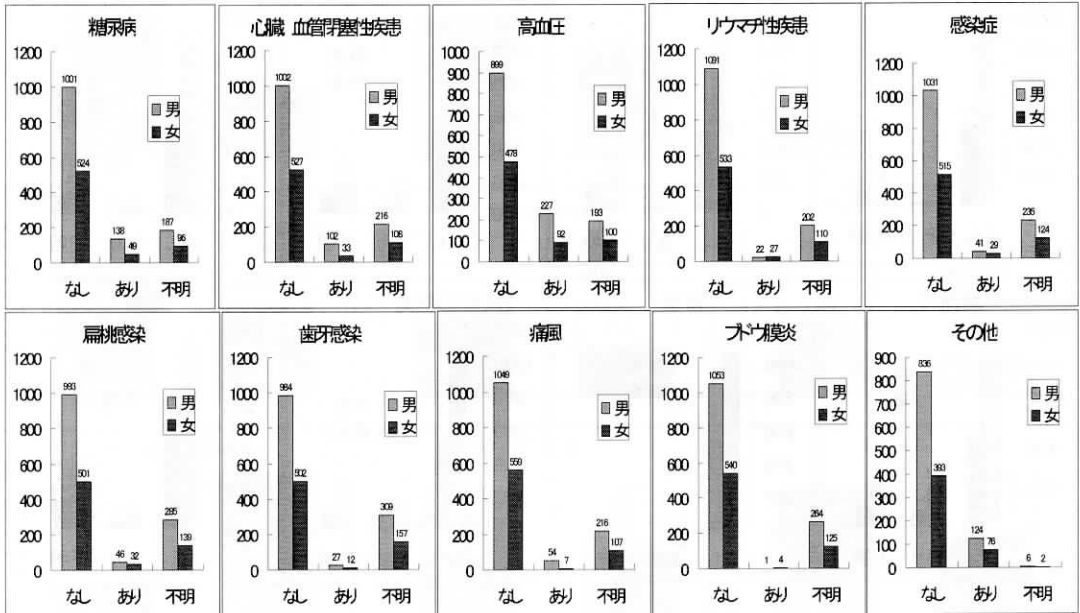
既往歴



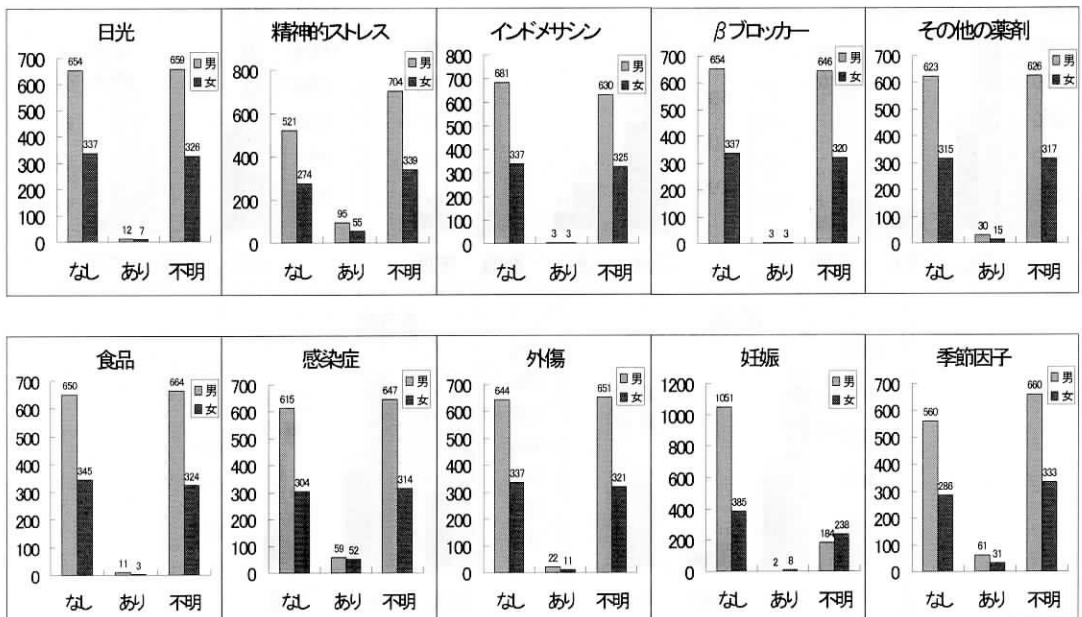
合併症状



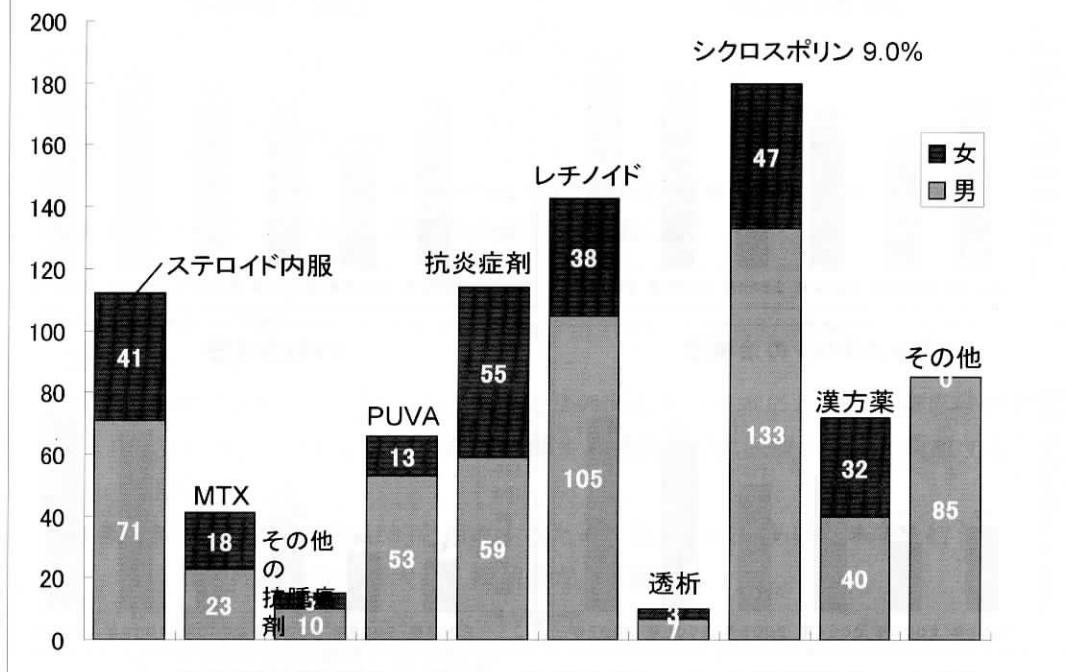
合併症



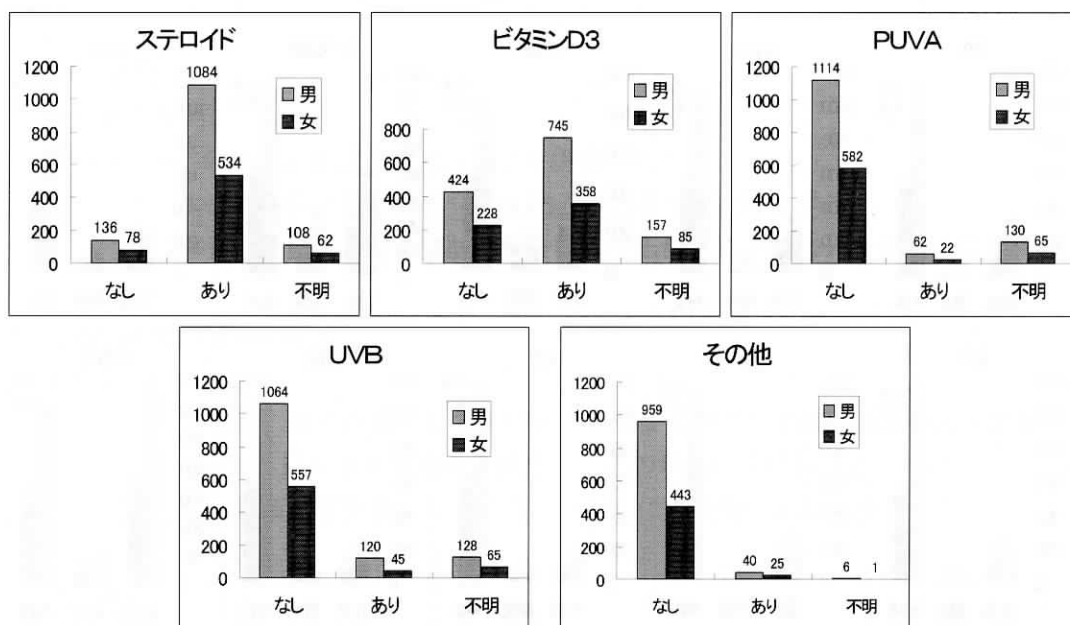
悪化因子



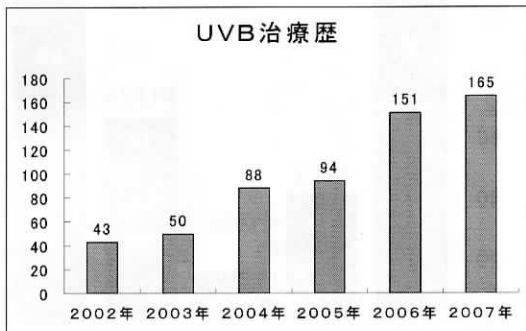
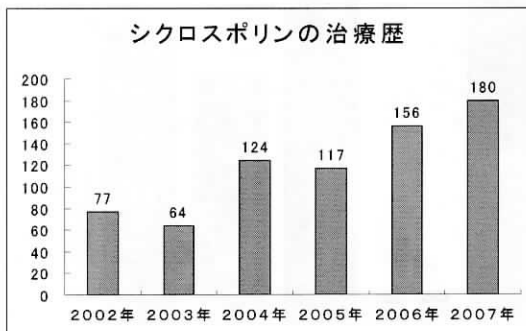
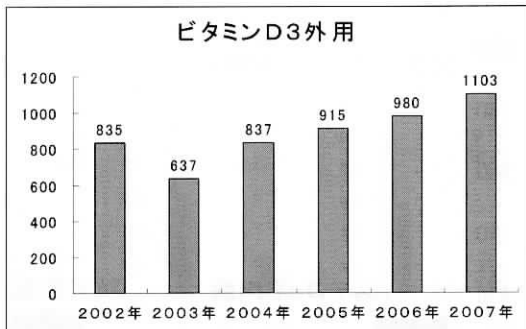
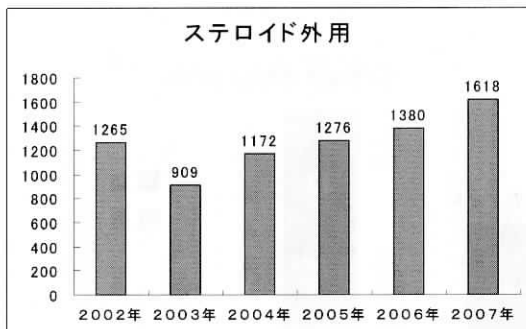
既往の治療:全身投与



既往の治療:局所投与



治療内容の変化



検査

